

中日会報

公益社団法人 中部日本書道会
 編集事務局 編集部
 〒450-0002 名古屋市
 中村区名駅二丁目45-19
 桑山ビル8階C号室
 電話 (583) 19000番
 F A X (583) 19100番
<http://www.cn-sho.or.jp>
info@cn-sho.or.jp
 印刷 株式会社 荒川印刷

理事長挨拶



理事長
伊藤仙游

「天高く馬肥ゆる秋」とでも申しませうか、爽やかな秋の気配が次第に色濃くなつてまいりました。会員の皆様には、日本の美しい四季の訪れを充分にご享受になり、健康に楽しくお過ごしのことと心からお慶び申し上げます。

しかしながら、一方では台風などの被害も多発しており、被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。防ぎようのない天災ですが、出来るだけ早めのご判断と行動をお願い致します。

「芸術の秋」とは現代では言い古された言葉のようにですが、あちこちで美術展が開催され、書の古典についての展示なども行われます。これを機会に、今年の秋は思い切り「書道三昧」は如何でしょうか。秋の夜長に筆を執り、古典を臨書し思いの丈を書き現す。「何時でもそつだ。」と聞こえて来そうですが、自身の書力の向上を大切に致しましょう。

また、コロナ禍も少し下火になってまいりましたから、ご自分だけでなくお友達をお誘いになり美術展にお出かけになると、書道が繋

ぐ「輪」を拡げることになります。そして鑑賞する事を楽しむ方が増えるとその次は、自分で書く事を楽しむ方が増えるのではないかと。幻想かもしれませんが是非ともそうありたいと願っています。日本の大切な伝統文化であり芸術である書が、裾野を拡げる事でますます盛んになる。そう信じて、私達中部日本書道会企画委員は益々の努力を致しております。

本年度下半期の中部日本書道会の事業は本会報にも掲載されておりますが、十月「書道教育研修会」十一月には「公開講座」「書の匠展・壽書展」「チャリティー愛の募金」、その後は今年度復活する「会員交流ボウリング大会」、「年賀状展」「中日書きぞめ展」「理事評議員会」「講演会」と続いてまいります。来年度の「中日書道展」についても既に準備が始まっております。

皆様方の温かいお心遣いの賜物であります「チャリティー愛の募金」は十二月末日までに、昨年以上に多くの募金を頂戴出来まますよう、心からお願ひ申し上げます。

今後の本会事業につきまして、常に前回よりより良くより効率的に作業を進めたいと、企画委員一同懸命に努めております。今後とも会員の皆様には、絶大なご支援とご協力を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

「令和4年 チャリティー愛の募金」について

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素は、本会の福祉事業に対しまして、ご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。さて、本会では、毎年年末に「チャリティー愛の募金」を行っております。

つきましては、本会役員の先生方並びに会員の皆様には広く献金をお願いし、中日新聞社会事業団・東海テレビ「愛の鈴」へ寄託をして参りたいと思っております。何卒主旨ご理解の上、下記の通りご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この募金の締め切りを、令和4年11月末といたします。

お申し込みは、郵送された専用振込用紙をご使用の上、お振り込みください。

尚、献金の経過並びにご芳名は1月発行の中日会報でご報告をさせていただきます。

敬 具

理 事 長 伊 藤 仙 游
 渉外宣伝部長 田 中 修 文

目 次

- 1 理事長挨拶 理事長 伊藤仙游
チャリティー愛の募金
- 2 岐阜支部設立三十周年記念
第三回 書の匠展・
第三十一回 壽書展
- 3 第三十一回 壽書展
- 4 行事予定表「十月〜三月」
- 5 第七十三回 毎日書道展入賞者
第三十八回 読売書法展入賞者
- 6 交流ボウリング案内
- 7 第二十六回 書の魅力 公開講座
第五回 手書き文字年賀状作品募集
- 8 第七十三回 中日書きぞめ展作品募集
支部だより（上半期）
- 9

団体署名実施協力中

つなごう日本の書道文化
 ユネスコの無形文化遺産に



ご献金にお願いの基準

名誉会長代行、名誉副会長、常任顧問、理事、 監事、顧問	10,000円
参与、評議員	3,000円
正会員	1,000円

チャリティー募金は寄付金として控除できます。

確定申告時には、領収書と証明書が必要です。領収書をご希望の方は本部事務局までご連絡ください。

証明書は中部日本書道会ホームページから印刷できます。

ホームページ <http://cn-sho.or.jp/> メール info@cn-sho.or.jp

岐阜支部設立三十周年記念

岐阜支部長 今田 紅 溪

●岐阜支部設立三十年の歩み（概略）

本年度岐阜支部は、平成四年四月設立以来三十周年を迎えることとなりました。初代支部長伊藤天游先生、二代安藤秀川先生、三代後藤秀園先生はじめ八代の諸先生方のご尽力により、会員相互の研鑽、親睦、伝統文化の継承を主旨とし三十年歩んできました。

●講演会は第一回樽本樹邨先生、二回以降黒田玄夏先生、種村山童先生はじめ本部歴代の役員、徳川美術館副館長、加藤栄三、東一記念館館長他をお迎えし、有意義な会を続けております。
●研修旅行は奈良にて墨作り、信楽陶芸村にて陶器に絵・文字を画く、越前和紙の里にて色紙の紙漉きに色付けの体験、京都、奈良他各地の美術館、博物館、寺社を鑑賞、平成十七年は「愛」地球博にて本会主催の「世界のSho 日本の書」が開催され、モリゾーキッコロメッセに会員の小作品を貼り込んだ大行灯の展示、世界の名書家選、席上揮毫他イベントを見学。

●岐阜支部展は第一回は岐阜支部役員展として、支部役員、評議員六十名にてロイヤルホールで開催、第二回以降岐阜支部展として岐阜市民会館に於いて会を重ね、第十三回展では過去最多の二六九点を展示、今年度二十七回展は二八八点の展示、伊藤仙游理事長、岡野楠亭副理事長、加藤裕副理事長、松下英風副理事長の作品の展示で華を添えて戴きました。また、支部設立三十周年を記念して、支部役員による特別展観の作品展も開催しました。

●令和元年には、伊藤仙游先生が岐阜支部より初の理事長に就任され、支部の誇りであり喜びです。理事長ご就任祝賀会を開催いたしました。

●設立三十周年記念式典・懇談会

令和四年九月十九日にホテルグランヴェール岐山に於いて開催。来賓として中日新聞岐阜支社報道部長大橋洋一郎様、伊藤仙游理事長、岡野楠亭副理事長、加藤裕副理事長、松下英風副理事長、横井宏軒事務局長をお迎えし、お祝辞を大橋洋一郎様、伊藤仙游理事長、加藤裕副理事長、乾杯のご発声を松下英風副理事長に戴きました。支部役員安藤秀川先生、松永清石先生

よりご祝辞、坪井景照先生の閉会の言葉で終了しました。
コロナ禍でもあり、簡素な式典と祝宴となり、又台風十四号の接近の折、開催出来るかと懸念しましたが無事終えることが出来ました。



支部設立30周年記念式典



理事長挨拶



特別展観会場風景



特別展観支部役員作品展

令和4年度 公益社団法人 中部日本書道会
第3回 書の匠展・第31回 壽書展

会 期：令和4年11月9日(水)～11月13日(日)
 会 場：電気文化会館 東・西ギャラリー

◇出品予定者

【書の匠展】

【壽書展】

柘	武内	高木	鈴木	佐野	後藤	工藤	川崎	川合	加藤	大木	大池	岩田	磯谷	天野	松	加藤	岡野	伊藤	鬼頭	安藤	樽本	神田	馬場	波切	中林					
英峰	峰敏	玄齊	立齋	翠峰	啓太	俊朴	尚麗	玄鳳	矢舟	青嵐	青岑	澗流	凄聴	白雲	英風	裕	楠亭	仙游	翔雲	滴水	樹邨	真秋	紀行	童州	景					
今井	井野	伊藤		松永	平松	早川	小林	土屋	近藤	後藤	黒田	加藤	梶山	伊藤	安藤	村上	水野	遠藤	横井	山本	山中	山際	村瀬	古川	廣澤	原田	馬場	波切	中林	
仙童	吟紅	曉嶺		清石	紫雲	泰山	露風	陽山	浩乎	汀鶯	玄夏	子華	夏舟	昌石	秀川	史麗	峯翠	栄久	宏軒	雅月	桂山	雲峰	俊彦	昇史	凌舟	凍谷	紀行	童州	景	
赤堀	青木		築瀬	本間	稗田	鈴木	杉坂	杉江	磯和		横山	山内	水谷	三神	松浦	丹羽	中村	中野	中島	富田	坪井	津田	高橋	佐藤	佐々木	近藤	権田	倉重	木戸	落合
正風	芳翠		舟香	翠眉	美苑	瑞象	育子	秀城	鴻東		夕葉	江鶴	海越	榮軒	華苑	常見	秀峰	玉英	龍溪	栄棠	景照	秋月	秀箭	慶雲	木昂邦	素光	穂園	拜石	竹葉	深淵
熊崎	久野	北村	河原崎	神谷	加藤	加藤	加藤	籠瀬	小野	尾中	尾関	奥村	岡田	岡田	岡田	大塚	大河	大上	遠藤	梅村	宇野	内本	牛田	今村	今田	石原	石井	猪飼	安藤	秋松
北咏	天山	光苑	坡青	采邑	碧涛	夕堤	松雲	提花	景月	杉得	楊花	碧洋	麗峰	瑞雪	愛子	窓月	柳光	憧花	紫聖	鶯谷	光峰	久園	美泉	寿鴻	紅溪	春香	瑞鶴	閑雲	清香	秀玲
丹羽	新美	中山	中村	中村	仲村	永谷	中川	中尾	中井	鵜澤	塚田	谷	田島	竹内	高田	高島	高木	高井	高井	世古	鈴木	鈴木	鈴木	杉山	杉本	白木	志村	志水	近藤	小島
裕	珠光	芳泉	竹童	曾南	春水	恵子	貴舟	芝菜	港星	澄江	俊可	泉石	不染	春翠	香坡	光風	東里	香園	大虚	蘭峰	静苑	松厓	瓊川	京扇	紫香	舟泉	玉華	晴翠	岐香	
	渡辺	吉田	山脇	山本	山田	山川	森	村上	三輪	三輪	宮田	光澤	松田	松田	松澤	古田	古川	藤原	藤井	福島	深田	平松	坂野	阪野	早野	林	則武	野村	野中	野田
	月潭	香雪	三枝	史鳳	海石	昌泉	政子	美楓	三輪	三麗	清風	閑石	穂婢	樹幹	昂永	秀紅	花溪	郁代	晴鳳	有何	芳香	圭鳳	竹童	小波	江郷	春翠	穹	揚月	曾川	佳楊
森下	水野	松野	前野	船橋	半田	服部	野村	夏目	永田	長澤	中垣	寺尾	田中	鈴木	白井	正徳	柴田	佐藤	佐藤	小早川	黒野	熊谷	川松	川部	加藤	飯田	縣	青山	野田	山口
千翠	紅翠	彩雲	秋豊	幽泉	幸瑩	修江	繁子	美沙	正毅	美峰	幸聲	冽	桜花	木江	美翠	李泉	恵子	芳泉	桃華	恵祥	翠雲	弦謠	杷泉	啓子	芳枝	紫泉	欣司	碧雲	曾川	典子
				柚原	山口	矢田	三輪	竹山	志村	佐々木	佐伯	加藤	大野	岩田	山田	藤原	田辺	清水	清水	清水	黒野	近藤	小林	押田	伊東	渡會	渡邊	山本	山口	
				博	紅陽	康代	盈夫	秋峰	紫峰	木陽道	つた子	真郷	大典	旭峰	望星	常忱	泰子	水僊	史流	映雪	翠雲	向華	秋月	華水	惠一	紫江	博信	典子		

(順不同)
九月三十日現在

令和 4 年 (2022 年) 度 公益社団法人中部日本書道会

行事予定表「10 月～3 月」

※各事業につきまして変更になる場合がありますので、各事業のご案内でご確認をお願いします。

月	日	曜	本 部	支 部 「支部展・支部集会・交流会・講演会・研修会」
10月	16	日	第34回書道教育研修会 (国際センター)	
	29	土		西三河支部研修会
	30	日		一宮支部研修会・中南勢支部研修会
	31	月	中日会報206号発送(予定)	
11月	6	日		東三河支部講習会(豊橋市民文化会館)
	8	火	第3回書の匠展・第31回壽書展 搬入・陳列(電気文化会館)	
	9	水	第3回書の匠展・第31回壽書展 (電気文化会館)	
	10	木	〃	
	11	金	〃	
	12	土	〃	
	13	日	〃 搬 出	第26回公開講座 (電気文化会館)
	16	水		第35回中南勢支部展(三重県立美術館ギャラリー)
	17	木		〃
	18	金		〃
	19	土		〃 中南勢支部集会・講演会(三重県立美術館講堂)
	20	日		第35回中南勢支部展・半田支部研修会・北勢支部研修会
	26	土		第67回一宮支部展・第50回記念一宮支部学生書道展 (一宮スポーツ文化センター)
	27	日		〃
末			チャリティー愛の募金締切	
12月	4	日	ボウリング大会(星丘ボウル)	
2023年 1月	2	月		第2回東三河子ども書道展(豊橋市子ども未来館) 1月15日(日)迄
	19	木	第73回中日書きぞめ展搬入締切 (本部)	
	29	日		一宮支部集会・講演会(一宮スポーツ文化センター)
	下旬		中日会報207号発送	
2月	4	土	第73回中日書きぞめ展審査	
	5	日	評議員会・講演会・祝賀懇談会	
	15	水		第55回西三河支部会員展(岡崎市美術館)
	16	木		〃
	17	金		〃
	18	土		〃 西三河支部集会・講演会・交流会
	19	日		〃
	28	火		第46回東三河支部選抜展(豊橋市民文化会館)
3月	1	水		〃
	2	木		〃
	3	金		〃
	4	土		〃
	5	日		〃 半田支部集会・講演会(半田市福祉文化会館)
	11	土	第73回中日書きぞめ展 (ナディアパーク)	
	12	日	第73回中日書きぞめ展表彰式 (ナディアパーク)	

第七十三回
毎日書道展入賞者

〔本会会員関係分〕
〔東海展出品者名簿より〕

会員賞（漢字部） 鈴木 紅瑤



会員賞

〈漢字部〉

鈴木 紅瑤

秀作賞
〈漢字部Ⅰ類〉

青山 高陽

毎日賞

〈漢字部Ⅱ類〉

日下部みゆき

森 政子

〈漢字部Ⅱ類〉

杉本 扇鈴

北村まり子

佳作賞
〈漢字部Ⅰ類〉

黒柳 真実

〈大字書部〉

〈近代詩文書部〉

岩城みつ代

大塚 裕子

〈大字書部〉

石塚美根子

〈近代詩文書部〉

三上 啓鳳

田中 春華

〈かな部〉

大西 和枝

小嶋 真海

U23新鋭賞
〈漢字部Ⅱ類〉

片山 沙弥

宮本 清霞

加藤 浩子

片岡 蘭泉

小島 徹

〈大字書部〉

竹内 紫燕

岩崎 玉楊

水越 鈴雪

佐藤 緑風

片山 沙弥

太田 紫玉

荒木 桃花

関村 吟香

梶田 夕貴

太田 龍峰

九野 恭葩

高橋 花柊

梶田 汀雨

田中 雅子

第三十八回

読売書法展入賞者

〔本会会員関係分〕
〔中部展出品者より〕

読売準大賞

〈かな〉

山本 雅月

読売新聞社賞

〈かな〉

梶田 女理

読売俊英賞

〈漢字〉

荒木 泉蓉

小野 蹊泉

金丸 翠石

下村 汀柳

中尾 芝菜

〈かな〉

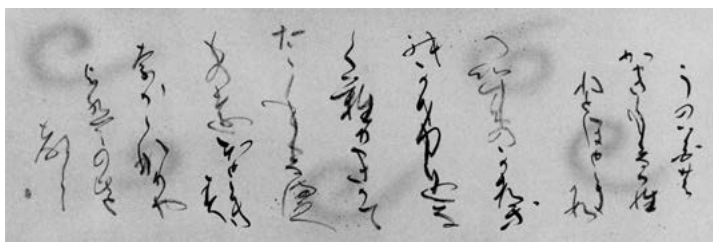
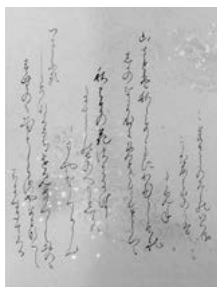
天野 月清

久保田清葉

村瀬 季舟



読売準大賞（かな） 山本 雅月



読売新聞社賞（かな） 梶田 女理

読売奨励賞

〈漢字〉

鈴木 美豊

野村 揚月

古田 清流

向山 青泉

〈かな〉

小野田美晴

加藤 玉華

柴田美由紀

丹羽 博美

特 選

井村 耕心

草野 慧泉

佐藤 恵順

戸田 美祥

外山 悠汀

長谷川緑光

山口 紅鶴

〈かな〉

川本 俊子

佐藤 悦子

堀田 花

和田美智子

〈調和体〉

小松 翠篁

〈篆刻〉

山崎 曲全

吉原 愛璃

秀 逸

〈漢字〉

荒川 昌龍

安藤 範香

伊藤 玉冰

伊藤 秀英

宇佐美吉恵

内川 昌子

太田 紫翠

大野 彩

大場 敏充

岡田 翔鳳

長船 志保

門松 静紗

亀井 杏華

久野 哲仙

熊谷 石華

倉知 葉舟

桑原 静光

近藤 星崖

佐藤 琉華

鈴木 如扇

関谷 蒼玄

高森 良鶯

竹中 青蘭

寺岡 春蘭

中島 千里

野々村宣子

福山 恵山

牧野 瑞葉

松尾 心巖

村瀬 徑秀

山本 祥仙

吉田 聖汀

渡邊 香蘭

渡辺 祥令

浅野 蛍雪

足立 麗華

安藤 幸恵

石橋 遊貴

岩田 香翠

大野 紀舟

岡戸 保子

小野由紀子

栗名 孝枝

後藤 珠美

近藤 由果

杉山 恵子

高木由起江

西尾 雅子

増井 希

松田 典子

森 則子

山口 鈴代

山下 晴美

吉村佳代子

伊藤 紅彩

伊藤 清一

加藤日出男

永田 正毅

〈調和体〉

堀 梅肇

伊藤 江麗

伊藤 稚子

岩本 麗泉

上田 清楓

大野 蘭香

木村 輝扇

柴田 恵子

柴田 桃花

田村 裕香

豊嶋 青岑

西脇 聖園

※両展共、記載につきましては極力注意をしておりますが、漏れがございましたら本部までご連絡下さい。次号に掲載させていただきます。

会員交流

ボウリング大会

懇談会 競技終了後
会場 星ヶ丘ボウル
会費 3,000円(会員外4,000円) ※競技費、懇談費用を含む
募集人数 約80人
申込〆切日 11月11日(金) 本部又は厚生部加藤矢舟まで。

会員外の方も参加出来ますので、ご友人等おさそい合わせください。多数のご参加をお待ちしております。(厚生部)



令和4年度 第26回 書の魅力 公開講座

会員及び一般市民を対象に、中部日本書道会を代表する2名の講師が書の魅力について講演します。

11月13日(日)

受付 12:00

開会行事 12:30

第一講座 12:40~13:40

講師：理事

加藤 矢舟 先生

演題 「学校における書き初めの
T・T指導の試み」

—豊田書道連盟書写ボランティア
活動の実践から—

第二講座 13:50~14:50

講師：理事

山本 雅月 先生

演題 「かなの美」

閉会行事 14:50

会場 電気文化会館
イベントホール (5階)
名古屋市中区栄2-2-5

日時 令和4年11月13日(日)

会費 無料
(ただしテキスト・資料代
として2,000円集めさせて
いただきます)

対象 15才以上で原則として2講
座とも聴講できる方

定員 80名(先着順)

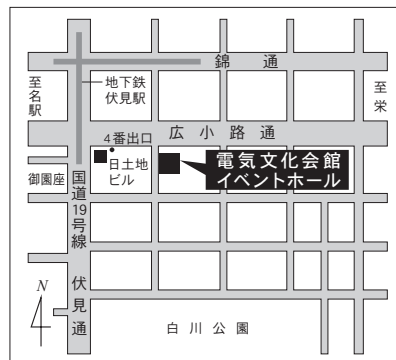
締切 10月13日(木) ※受講のお知らせは締切後、発送します。

※申し込みは、上記日付にて終了しております。

ハガキ申込先 〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号
桑山ビル8階 C号室
中部日本書道会 公開講座係

メール申込先 koukai@cn-sho.or.jp

第3回 書の匠展 開催 会期 令和4年11月9日(水)~11月13日(日)
第31回 壽書展 会場 電気文化会館(5階 東・西ギャラリー)



主催：公益社団法人 中部日本書道会・中日新聞社 後援：愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会

第5回 手書き文字年賀状作品募集

公益社団法人中部日本書道会では、下記の通り年少者~高校生を対象とした第5回「手書き文字年賀状コンクール」を開催します。個性あふれる心温まる手書きの年賀状を奮ってご応募して下さい。優秀作品を本会ホームページに掲載し、入賞者には図書カードを贈呈します。

応募規定 ・出品料は無料。一人1点のみの出品とし、郵便葉書の大きさに限る。(縦横は自由)
・イラスト等入っていても可とするが、必ず手書きされたものに限る。
・筆記用具は自由とし、小学校3年生以上は毛筆(筆ペンを含む)を奨励する。
・宛名面左側に郵便番号・住所・氏名・学年(年少者は年齢)を明記の上、下記送付先に郵送のこと。

応募資格 ・年少者~高校生

応募締切 ・令和5年1月20日(金) 必着

**作品送付
問い合わせ先** ・〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号 桑名ビル8階 C号室
公益社団法人中部日本書道会「手書き文字年賀状コンクール」係
TEL (052) 583-1900

入賞発表 ・1月末(予定)に本会ホームページにて優秀作品を掲載し発表とする。
・ホームページアドレス <http://www.cn-sho.or.jp>

第73回 中日書きぞめ展作品募集

◆会 期 令和5年3月11日(土)・12日(日)

11日(土) 午後1時～午後6時
12日(日) 午前10時～午後6時

◆会 場 ナディアパーク2F アトリウム

名古屋市中区栄3丁目18番1号

◆授 賞 式 令和5年3月12日(日) 午後2時
ナディアパーク3F デザインホール
理事長賞以上の生徒さんへ出席していただきます。

◆褒 賞 衆議院議長賞、参議院議長賞、文部科学大臣賞、愛知・岐阜・三重各県知事賞、名古屋市長賞、愛知・岐阜・三重各県議会議長賞、名古屋市会議長賞、愛知・岐阜・三重各県教育委員会賞、名古屋市教育委員会賞、記念賞、中日書道会賞、中日新聞社賞、東海テレビ放送賞、CBCテレビ賞(以上申請中)、名誉会長賞、理事長賞、推薦、奨励賞、特選、準特選、秀逸、佳作、入選
※会場には奨励賞以上の作品を陳列します。

★本年はCBCテレビ賞以上の作品を中日展(一般部展覧会)愛知県美術館ギャラリー8階に令和5年6月14日(水)～18日(日)まで展示致します。

◆資 格 幼年・小学生・中学生・高校生

◆課 題 自由

◆出品要項 詳しい出品要項出品目録が中日書道会本部にありますのでお問い合わせ下さい。

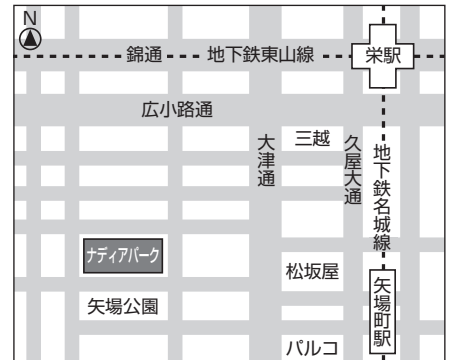
◆作 品 ○用紙は、半切1/4縦(ハツ切) ※高校生は半切縦も可 ○作品は、表装しないこと。
○書体は、幼・小=楷書、中=楷書又は行書、高校生=自由
○作品には、学年・氏名を必ず明記すること。

◆出 品 料 一点につき400円(個人出品者は賞品、賞状の郵送料として300円を加算して下さい。)

◆搬入締切 令和5年1月19日(木) 午前10時～午後3時
(送付される場合は18日(水)中部日本書道会本部必着をお願いします。)

◆搬入場所 公益社団法人 中部日本書道会
〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号 桑山ビル8階C号室
担当 第一教育部長 武内峰敏
TEL <052> 583-1900 FAX <052> 583-1910

◆取 扱 所 伊藤大林堂、永楽堂、應天堂、魁盛堂、伽藍、菊屋商店、高誠堂、小松表具店、書遊 平野筆墨堂、青柳堂、大玄堂、長楽齋筆舗、名古屋キョー和、名古屋ホウコドウ



◆あ と が き
中日会報二〇六号をお届けいたします。
本号では、岐阜支部設立三十周年の記念行事を掲載させていただきました。支部の中では最も新しい支部ではありますが、それでも三十年の歴史を刻んでおりますことは、中日書道会の伝統と歴史の長さを感じずにはいられません。各支部からの上半期の報告も記しております。本部事業のみならず、各支での取り組みにも目をお留め頂きたいと思っております。
本部事業では、恒例の「チャリティー愛の募金」や「書の匠展・書展」「公開講座」他の事業が開催されます。各事業への一層のご協力も宜しくお願いいたします。
収まりきらないコロナ禍に、十二分にご注意ください。(編集部)

ホームページアドレス <http://www.cn-sho.or.jp>
メールアドレス info@cn-sho.or.jp

社中展・個展のご案内掲載について
○書社風露 樂書展(新古今集四季を書く)
会期 令和五年一月二十一日(土)～二十二日(日)
会場 半田市福祉文化会館 二階
主催 書社風露 代表 山内江鶴
本会会員による書展のご案内を会報及びHPにて掲載させていただきます。会報掲載には、展覧会案内原稿、HP掲載には展覧会案内ハガキをお送りください。尚、展覧会原稿及びハガキは、必ず封書にてお送りください。次号掲載は、二月下旬～五月中旬開催の展覧会となります。お申し込みは、十二月二十日までに本部へお願いします。 編集部

評議員		評議員		評議員		評議員		評議員	
〇8月13日	高木紫光氏	〇9月19日	梅 春泉氏	〇8月19日	竹中勘次様	〇9月20日	参 与	〇8月27日	花井蘭徑氏
〇8月19日	英峰氏	〇9月27日	参 与	〇8月27日	美代子様	〇9月27日	参 与	〇9月18日	花井茂様
〇8月27日	鶯野紫筆氏	〇2月10日	事後報告	〇8月27日	鶯野せつ子様	〇9月27日	参 与	〇9月7日	亀井幡川氏
〇9月7日	ご母堂	〇6月	正会員	〇9月7日	角田和泉氏	〇6月	正会員	〇9月18日	関戸華月氏
〇9月18日	武井岳峰氏	〇6月	正会員	〇9月18日	武井岳峰氏	〇6月	正会員	〇9月18日	関戸華月氏
〇9月18日	武井岳峰氏	〇9月18日	正会員	〇9月18日	武井岳峰氏	〇9月18日	正会員	〇9月18日	関戸華月氏
〇9月18日	武井岳峰氏	〇9月18日	正会員	〇9月18日	武井岳峰氏	〇9月18日	正会員	〇9月18日	関戸華月氏

心より哀悼の意を表し、ご報告申し上げます。(厚生部)

支部だより(令和四年度上半期)

一宮支部

●第一回部長会

日時 四月十日(日)
会場 一宮スポーツ文化センター
出席者 部長会、十六名

*第四十九回一宮七夕まつり学生書道展

*第二十八回選抜作品展

【役員・指導者の小作品】

日時 七月九日(土)、十日(日)
会場 一宮スポーツ文化センター
来場者数 一、五五〇名

上半期の行事には、支部協力体制にて参加を致しました。コロナ禍の現況の中、様々な制限のもと、皆様のご協力のお陰をもちまして無事開催実施終了することが出来ました。



第3回部長会 真清田神社文化殿



第49回一宮七夕まつり学生書道展



第28回選抜作品展



平洲記念館

半田支部は上半期には事業は無く下半期に事業が集中しています。九月の支部展・公開書道研修会、十一月の研修会、三月の集会・講演会を開催予定であります。ただ新型コロナウイルスに加えインフルエンザの蔓延も心配ですが万全の対策を施し開催したいと思っています。
上半期の事業がありませんので知多半島にある記念館をご案内いたします。東海市立平洲記念館は車で知多半島道路「大府東海IC」より約十分のところにあります。
東海市出身の江戸時代の儒学者・細井平洲先生の記念館です。平

半田支部

半田支部は上半期には事業は無く下半期に事業が集中しています。九月の支部展・公開書道研修会、十一月の研修会、三月の集会・講演会を開催予定であります。ただ新型コロナウイルスに加えインフルエンザの蔓延も心配ですが万全の対策を施し開催したいと思っています。
上半期の事業がありませんので知多半島にある記念館をご案内いたします。東海市立平洲記念館は車で知多半島道路「大府東海IC」より約十分のところにあります。
東海市出身の江戸時代の儒学者・細井平洲先生の記念館です。平

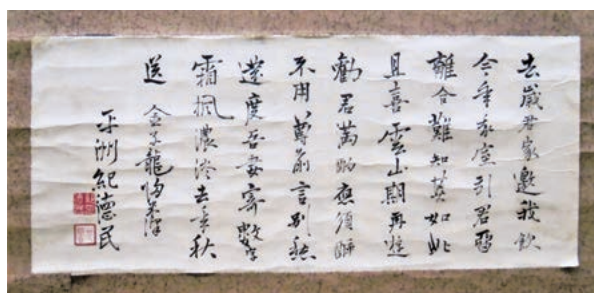
洲先生は、藩政改革で有名な米沢藩主・上杉鷹山の師として藩財政の立て直しに活躍し、晩年は尾張藩に帰郷し、藩校「明倫館」を開設し初代督学となりました。武士ばかりでなく農民や町民にも学問を教え、多くの人々から慕われた。「人はみな学ぶことよって正しい人の道を知ることが出来る」平洲先生は最後までこの信念を貫きとおした。平洲先生の書画が沢山あります。一度お出かけください。



記念館展示会場



平洲先生縦軸作品



平洲先生横軸作品

西三河支部

●支部研究会

と き 三月二十七日(日)

と ころ 安城市民会館

参加者 五十七名

日頃から、各自研鑽している作品を、支部役員の先生方のご指導を仰ぎ、有意義な時間を過ごすことができました。

●第五十五回記念学生書道展

と き 七月八日(金)～十日(日)

と ころ 岡崎市美術館

出品点数 四、二七六名

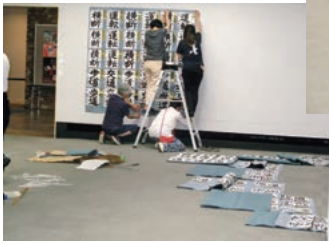
(うち高校生二二八名)



研究会



学生展 審査風景



学生展 陳列作業



学生展 会場風景

入場者数 一、二〇九名
学生展は、毎年テーマを決めて開催しており、本年度は第五十五回記念としてテーマを「交通安全」とした。コロナ禍のため、各作業を最小限の人数で行い、展示作品は特別賞以上とした。

(課題)

一年	あか	二年	みぎ
三年	左右	四年	安全
五年	注意	六年	交通
中一	運転	中二	歩道
中三	横断	高校	交通安全

課題決定から商品発送まで、大きなトラブルもなく、少人数で行い、無事終了することができました。

東三河支部

●東三河支部展

会 期 七月五日(火)～十日(日)

会 場 豊川市桜ヶ丘ミュージアム

第一、二、五展示室

出品者 支部会員

出品数 九十三点(賛助出品含む)

本部から伊藤仙游理事長、岡野楠亭副理事長、加藤裕副理事長、松下英風副理事長、四名の先生方の玉作を賛助出品していただき、第四十五回東三河支部展を開催しました。本年度もコロナウイルス感染防止対策に最善の注意を払い、開催することができました。

会場はこれまで利用していた豊橋美術館が改修工事のため、豊川市桜ヶ丘ミュージアムにて開催しました。展示場所が一階、二階と別れましたが、作品の搬入作業も会員の皆様のご協力のおかげでスムーズに行うことができました。展示期間中は落ち着いた雰囲気の中、ご来場いただいたお客様や諸先生方から温かい励ましやご指導を賜り、無事展覧会を終えることができました。

●講演会

日 時 七月九日(土) 午後三時半

会 場 ロワジールホテル豊橋

講 師 愛知県弁護士会 東三河支部

池田至弁護士

演 題 「危機管理と回避」

参加者 五十四名

講演会では、池田至弁護士に日常生活巻き込まれるトラブルの対処、回避の仕方を具体的な事例も交えながら講演いただきました。身近に起こりうる交通トラブルや

SNSの話、今年より十八歳から成年とされる意味についてもご説明いただきました。普段耳にしたことのない専門用語も沢山出てきましたが、違和感や直感が働いた時には、自分で勝手に思い込まずに専門家に相談してみる、という貴重なアドバイスを最後にいただきました。

●会員集会

日 時 七月九日(土) 午後五時

会 場 ロワジールホテル豊橋

参加者 五十七名

本部から松下英風副理事長、村瀬俊彦理事のご臨席を賜り、令和四年度東三河支部会員集会を開催しました。令和三年度の事業報告、収支決算、令和四年度の事業計画、収支予算案が報告されました。その後、第七十一回中日書道展の入賞者が紹介され、会員一同盛大な拍手でお祝いしました。今年もコロナ禍のため、最後にお弁当を持ち帰っていただき解散となりました。



東三河支部展



講演会



会員集会

濃飛支部

第三十六回支部展

今年の支部展は、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、恵那文化センターで開催となりまして、一階集会所にて、会員作品七十点を展示。コロナ対策により受付検温を実施しながら、延べ計三一五名の来訪がありました。期間は、令和四年七月二十九日(金)十三時～令和四年七月三十一日(日)の十六時までで、理事長伊藤仙遊先生、副理事長岡野楠亭先生、副理事長加藤裕先生、副理事長松下英風先生の賛助出品も加え、会員の力作を展示し、来訪者から多種多様な作品にご指導ご鞭撻をいただきました。



支部展

支部総会

今年の支部総会は、令和四年七月三十一日(日)の午後一時三十分、恵那文化センター多目的研修室にて、本部から副理事長の加藤裕先生と松下英風先生にご臨席いただき、松下英風先生からはご祝辞を頂戴し、委任状出席を含め計四十名の参加で行いました。

三野島支部長が議長を行い、令和三年度事業報告、収支決算報告、監査報告を受け承認されました。また、令和四年度の事業計画案、収支予算案が提案され、いずれも承認されました。今年度はコロナ禍に伴い交流会は中止といたしました。以降、コロナ禍の動向を注視し、会員の交流を図りながら、書の向上に向け会員各々の書道鍛錬を怠らず、邁進することを確認し合いました。

講演会

引き続き、午後二時三十分より午後四時まで、総会と同会場にて、会員や一般の方

三十名に、二講演と盛沢山の中身となりました。

①講師の支部会員の中部日本書道会委嘱の堀梅肇先生より、演題を「篆刻について」として、多数の自己作品や印材を展示するとともに、篆刻の道に没入され、刀法は多様で、雄渾蒼勁、蕭洒飄逸の感があり、素晴らしい作品から、文字研究の視点からも篆刻の魅力が伝わってきました。

②講師の中部日本書道会副理事長の加藤裕先生より、演題を「新調和体から近代詩文へ」として、日本を代表する近代詩作家として精選してこられた歩みも加え、師の「金子鷗亭」先生の取り組みを中心に「近代詩文書」の発展や魅力をわかりやすく説明をされました。「目で見る音楽」ともいえるとして、「書の交響」の感があり、書の魅力を考える上で、書の楽しさと広がりをお考えさせられた講演でありました。「書の深さ・魅力」の表現を八作品もの実演から、近代詩文書に対する熱意が伝わり、時間があつという間に過ぎてしまいました。貴重な講演をありがとうございました。



講演会

北勢支部

講習会

日時 七月十日(日)
場所 四日市文化会館第四ホール
講師 小川匠石先生
参加者 二十五名(うち会員外四名)

「瓦當に学ぶ書表現」をテーマに三重県書道連盟参事の小川匠石先生による指導のもと、瓦當に刻されている文字や模様などを色紙や紙皿などに手書きで表現し、支部展にも展示しました。様々な表現による出来映えに参加者の皆さんも楽しい時間を過ごしました。

第三十五回北勢支部展

会期 七月十五日(金)～十七日(日)
会場 四日市文化会館第一展示室(二階)

出品点数 七十四点
賛助出品(本部より) 四点
入場者数 二五〇名

第三十五回展であり、会場も広がったので作品サイズの制限を設けませんでした。横額や二×八尺サイズ迄、大変見ごたえのある展覧会になったと思います。中日新聞社、CTVの取材もあり、後日放映されました。



北勢支部展

支部集会

日時 七月十七日(日)
会場 四日市文化会館第三ホール

本部より加藤裕副理事長、横井宏軒事務局長のご臨席を賜り、令和三年度事業報告、収支決算報告、会員数報告(二〇一名)令和四年度事業計画案、予算案が承認されました。

講演会

講師 副理事長 加藤 裕先生
演題 「新調和体論から近代詩文へ」

支部集会上で続いて同会場で行われました。金子鷗亭先生の書に関する随想、新調和体論の出版書を皆で読む。近代詩文の漢字と仮名交じりの表現を隷書や木簡等の古典を学びながら近代的造形表現を確立していかれた金子鷗亭先生、比田井天来先生の熱い想いを語られました。その後、持参された筆で揮毫して下さいました。「目で見る音楽」そのままのパフォーマンス、長い羊毛の筆を自由自在に走らせ、見事な作品(半切七枚、色紙七枚)が並びました。雅印付きの圧巻の作品は皆さんのカメラにしっかりと収められ、じゃんけんゲームで勝った人にプレゼントされました。近代詩文の書に感動した貴重な時間でした。



北勢支部講習会



北勢支部講演会

中南勢支部

中南勢支部におきましては、十一月十六日午後より、十一月二十日まで三重県立美術館県民ギャラリーにおいて、第三十五回中南勢支部展を開催します。(期間中十九日に集会、講演会を開催)。暫く中止していましたが、現地集合解散の型で、伊勢市徴古館、神宮美術館、せんぐう館をセットにして見識を深めようと思っております。

碑」といい、明治二十八年の建碑です。内容は干害で苦しんできた地域のために、小宮代三郎という人が私財を投げうって池を補修し、また新しく池を作ったりした功績を称えたものであると記されています。(参照文ヤフーウィキペディア、読売新聞文化欄二〇二〇年九月十七日付) 碑文最後に日下部東作という本名が見えます。よろしかったらお出掛け下さい。

岐阜支部

●岐阜支部事務局会議

四月二十四日(日) 五月三十日(月)
六月二十九日(水) 七月二十二日(金)
八月十九日(金) 九月六日(火)
支部総会について、支部会報の内容について、研修旅行について、第二十七回支部展と併設役員展について、設立三十周年記念式典・懇談会について協議を重ねた。

●第二十七回岐阜支部展・支部設立三十周年特別展観支部役員展

会期 九月十六日(金)～十八日(日)
会場 岐阜市民会館
参加者 二二八名 役員展出品者十九名
本部より伊藤仙游理事長、岡野楠亭副理事長、加藤裕副理事長、松下英風副理事長の賛助作品により、会場を引き立てていただきました。
特別展観役員展は二・六尺×六尺の大作をゆつたりと展示、支部展とは異なる雰囲気であり、来場者の目をひいていたようです。

●岐阜支部総会

日時 九月十九日(月・祝) 午後十一時半
会場 ホテルグランヴェール岐山
参加者 五十名
本部より伊藤仙游理事長、岡野楠亭副理事長、加藤裕副理事長、松下英風副理事長、横井宏軒事務局長をお迎えし、岡野楠亭副理事長のお祝辞の後、令和三年度事業報告、決算報告について、監査報告、令和四年度事業計画、収支決算について報告があり終了。

●設立三十周年記念式典・懇談会

総会に引き続き宴会場に移動。
本部の理事長、副理事長三名、事務局長、中日新聞社岐阜支社報道部長大橋洋一郎様のご臨席の元、伊藤仙游理事長、加藤裕副理事長よりのご祝辞、松下英風副理事長の乾杯のご発声をいただき、簡素ながら和気藹々と過ごしました。コロナ禍でもあり、又台風十四号の接近の折、短時間ではありますが無事終了することが出来ました。

中日会報二〇二〇号では津(伊勢の国)が生んだ偉人達を紹介させていただきました。今回は松坂市大阿坂町で、日下部鳴鶴先生の碑が発見されたことを紹介致します。ご存知の通り、鳴鶴先生は明治の三筆の一人で、中国特に六朝書の影響を受けた力強い筆跡が特徴です。それまでの和様から唐様に日本の書法基準を作り変えた「日本の近代書道の父」と評されることもあり、生涯で千基の石碑を書いたとも言われ、現在も三百基以上の碑が残されているそうです。今回大阿坂町で見つかった碑は『大阿坂邨修池之



碑文 日下部東作(本名)署名部分



大阿坂邨修池之碑



岐阜支部総会



岐阜支部展



祝賀懇談会